

小木曾教授の後期授業への対応

小木曾教授より、入院・療養のため後期の授業担当について、配慮の申し出があった。急を要するため、第9回経済学部執行部会議において本人の同席のもとに対応策を検討した。

早期に復帰して授業を担当したいという本人の希望を踏まえ、教務課長、人事課長とも相談した結果、休職はせず、平常点科目については代講、それ以外の講義科目については、1科目を除いて代講を立てず、補講期間を活用して本人が担当することになった。専門演習については本人の責任のもとにゼミ生と相談して対応する。

対応策は以下の通り。

代講を立てるもの（平常点科目であるため）

- ・ 基礎演習B（月1）・・・代講は古沢先生 ご了承済み
- ・ 基礎演習（再）（火6）・・・代講は久保田先生 交渉中

代講については、当該時間帯の前後に授業を担当しておられ、かつ、その曜日の担当コマ数が少ない先生に依頼

小木曾教授本人が担当

- ・ ネットワーキングの基礎（月2）
- ・ アンケート調査入門（月5）
- ・ ネットワーキング型組織（火2）

休講

- ・ アンケート調査実習（A）（月4）

当該科目は本来、通年科目として開講すべき科目であるが、現行カリではコンピュータ教室の設備の制約から2年後期と3年前期に分けて（セメスター）開講しており、来年度からの新カリでは2年前・後期の通年科目として開講する。移行期間にあたる今年度・来年度については、今年度後期に旧カリ学生のためのAを開講し、来年度前期に旧カリ学生のためのBと、新カリ学生のための通年科目を別々に開講する予定であったが、今年度Aを開講せず、来年度前期・後期に旧カリと新カリの合併授業として開講しても、学生にとっての不利益は2単位狙いの4年生に限られる。本来、この科目は通年で履修すべき科目なので、限られた学生への配慮より、（補講期間の時間的制約と）小木曾教授の負担の軽減を優先し、休講とする。